



「わかれて-つづけて」における運用の追加

- ① 主審が「わかれて」を告げるのと同時に競技者が技を出した場合、主審は「やめ」を掛け元の位置に戻り、通常通り試合を再開する — 違反とはならない
- ② 主審が「わかれて」を告げるのと同時に副審2名以上が同競技者に得点の旗を表示した場合、主審は口に手を当てるジェスチャー(正面を向いたまま)をおこなって副審に旗を下ろすように求める — 違反とはならない
- ③ 主審が「わかれて」を告げたにもかかわらず片方、又は両方の競技者が掴んだままの場合、主審は口に手を当てるジェスチャーをおこなう。副審の同意を得たあと片方、又は両方の競技者にカテゴリー2を与える — 15秒未満であってもC2の忠告を与える

運用時の留意事項

- ・そんなに厳しく取り過ぎない
- ・接近戦のケースをも認識する
- ・競技性と戦術性を理解する
- ・告げるときは大きく、明確に
- ・「わかれて」・「つづけて」を告げる場合、正しい距離と位置でおこなう
- ・「わかれて」のあと手を降ろすことなく「つづけて」を発声する

2022年10月2日

(公財)全日本空手道連盟審判委員会
委員長 高橋 和夫